

## 「私たちの格闘の相手は」エペソ6：12-14 堀田修一 20・11・1

I 私達の格闘の真の相手は、人ではない。「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです」：12。パウロは真の敵を自覚していた。勝利の秘訣は、真の敵は誰かを知る事。悪魔は、人間同士を争わせようとする。注意！

1. 「血肉（人）に対するものではなく」＝悪魔は、教会の一致を崩し、福音宣教と教会の建て上げが前進しないように、巧妙に働いて、私達が、目に見える人と争うようにさせる。目を覚まして祈りたい。

2. しかし、私達の霊的戦いの真の敵は、人ではなく、「悪魔とその手下の悪霊たち」＝「主権、力、この暗闇の世界の支配者たち、また、天上にいるもろもろの悪霊に対するもの」。悪い人は悪魔に支配されている。

3. 「悪魔と悪霊の起源」。

①初めに神は天と地を創造された→「天と地にあるすべてのものは、見えるもの見えないもの（御使い、天使のような霊的存在も）、王座であれ主権であれ、支配であれ、権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています」（コロサイ1：16、17）。これを本気で信じるなら、大きな励まし！悪魔は、神が造られた天使で、墮落した天使。神は悪魔より格段強い。

②エゼキエル28：1-19、イザヤ14：12-17の御言葉は、ツロやバビロンを描写しながら、それを超えたものを指し示している→悪魔の起源。これを知る事は大切！質問される時、答えられる。創世記には記されていない。創世記の前に天使の墮落があった。「神である主はこう言われる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石に取り囲まれていた」（エゼキエル28：12、13）。悪魔は、全きもの、美の極みの天使、御使いだっ。御使い、天使たちは、神に仕えるように、神が造られた被造物。悪魔、悪霊は墮落した天使。

③美の極み、最高の天使が、どうして墮落し、悪魔、サタン（ヘブル語で「敵対者」の意）となったのか→「あなたの心は自分の美しさに高ぶり、まばゆい輝きのために自分の知恵を腐らせた。そこで、わたしはあなたを地に放り出し」（エゼキエル28：17）。「明けの明星、暁の子よ。どうしておまえは天から落ちたのか。…おまえは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ…密雲の頂に上り、いと高き方（神）のようになろう。』だが、おまえはよみに落とされ、穴の底に落とされる」（イザヤ14：12-15）。「高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないように」（I テモテ3：6）。神に造られた知恵に満ち、美の極みであった最高の天使は、野心に燃え、神に仕える立場に満足せず、神ご自身のようになろう、神の位に上ろうとした。高慢になり、神に反逆し墮落した。神に罰せられ、栄光の地位から下ろされた。私達も高慢（自分を神の座に上げる）になりませんように！高慢な人は、神と人の忠告を聞かない。

④このようにして最高の天使であったのに、墮落し、神の敵対者となった墮落天使の悪魔。そして神が創造された天使達の三分の一が悪魔に従い墮落し悪霊となった→「その尾（悪魔の）は天の星（天使達）の三分の一を引き寄せて、それらを地に投げ落とす」（黙示録12：4）。「彼の使いたちも彼（悪魔）とともに投げ落とされた」（黙示録12：9）。聖書全体を読む必要がある。悪魔と悪霊の起源は、聖書全体からのみ分かる。「自分の領域を守らずに自分のいるべき所を捨てた御使いたち」（ユダ6節）。※教訓としたい。私達は、神から与えられた自分の領域、自分の分を謙遜に感謝して守り、神と人に仕えたい。自分の分、領域を守らない事は、神に背く高ぶりの罪。私達が自分の領域・分を守れますように。

⑤全能の神と神に従う天の軍勢（墮落しなかった天使達）は、墮落した天使の悪魔と悪霊達と戦ってくれている。主がこの世に来られた目的＝「悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました」（Ⅰヨハネ3：8）。

i 主の十字架と復活により主は悪魔と悪霊達に対して勝利を取られた。主の中に勝利がある。それ故、主にしっかり繋がることが勝利の秘訣。

ii 現在、そして主の再臨まで悪魔と悪霊達は最後のあがきとして罪の誘惑を仕掛けてくる。（「あなたがたの敵である悪魔が、吼えたい獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っています」Ⅰペテロ5：8）。私達が罪を犯す時は、悪魔と私達の罪の性質の共同の業の結果。

iii 主の再臨の時、神の完全な勝利、悪魔の完全な敗北がある（黙示録20：10）。ここに希望がある！神の最後の勝利は決まっている。

Ⅱ「ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、一切を成し遂げて堅く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい」：13。※大切なバランス＝次の両方が大切

①悪魔と悪霊達を恐れ過ぎてはならない。私達の神は、悪魔達より、ずっと強い全能のお方。

②油断し過ぎて、悪魔の策略に無防備であってはならない。人間の力では悪魔に勝てない。悪魔は、巧妙で、罪に鈍感な人には「それ位の罪は悔い改めなくていいよ」と語り掛け、自分を責め易い人には、「お前なんか、もう、神に赦されない」と責めて来る。神のすべての武具（御言葉・祈り・信仰）を取る事で勝利がある。

Ⅲ 第1の神の武具。「腰には真理の帯を締め」：14。帯は基本的な武具。重装備に先んじて身を引き締める。「真理」の帯。これが最初。たまたまではない。敵である悪魔の特徴を示す御言葉→「悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言う時、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです」ヨハネ8：44。悪魔はアダム、エバ以来、すべての人間に、偽りの言葉を語り掛ける。「神の御言葉は本当なのか？今、目の前の欲望を満たせばいいじゃないか。神なんかいない。さばきなんか無い。主の救いなんか無い。神はお前を愛してない」と。だから私達には「真理＝主ご自身と神の御言葉」の真理の帯という神の武具が、どうしても必要。真理とは＝「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです」ヨハネ14：6。真理そのものである主とつながり、主と深く交わり続ける事が、真理の帯を締める事。また、主の御言葉こそ真理。悪魔の偽りのことは、偽りの教え、異端の教え、偽りのメッセージ（おまえなんか神に見捨てられ、愛されていない）に対して、主の真理の御言葉、聖書全体の正しい教理、主からのメッセージ（自分の罪を告白して、わたしに立ち返りなさい。わたしは、あなたを、命をかけて愛している）をしっかりつかむ事が、真理の帯を締める事。主ご自身も、悪魔の誘惑に会われた時、すべて、聖書に、こう「書いてある」と、聖書の御言葉で対抗し、勝利を取られた。マタイ4：1-11。※主は、全能の神であられたので、聖書のみことばを使わなくても、悪魔に勝利が出来た。では、なぜ、聖書の御言葉で対戦されたのか？それは、私達の為。聖書の御言葉と真理の御霊が、私達に与えられており、御聖霊と御言葉には力があり、御言葉で対戦するなら、悪魔に勝利できる。私達への最高の模範！今も、私達を誘惑し私達に偽りを吹き込む悪魔に対抗出来るためには、日々、本気で真理そのものである主に聞き、主の真理の御言葉、聖書に聞き、御霊に満たされ、主としっかり繋がって主と主の御言葉によって養われ続けますように。「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由（悪魔の偽りの奴隷状態から）にします」ヨハネ8：32。